

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲 松 義 人
印刷所：S R S 株式会社
定 価：一部 30 円

2016年 5 月 20日
第**396**号

「共に暮らす・生きる」

三方原スクエア

施設長 出水 巖生

今から20年程前の話しになります。以前小羊学園では法人内で海外研修を実施しており、平成7年には私も法人内の職員数名でカナダのバンクーバーへ研修に行く機会が与えられました。現地では様々な福祉施設の見学等を行いました。その中でグループホームで生活をされている身体障がいの方の外出の付き添いをしながら街中へ一緒に出掛けした時のことを思い出します。車椅子の方の外出、しかもバンクーバーという都会の街中へ出掛ける状況でしたので、私達は何をすれば、と初めての体験に少々緊張しましたが、実際外出から帰ってくるまでの間でご本人が不自由になることは何一つありませんでした。公共交通機関や街中の歩道に至るまで身障者が不自由することがないように整備されていること、そして手助けが必要な場面ではその近くにいる人が自然に配慮や補助をしてくれる。私がそこで体験したのは障がい者に対する支援ではなく、「障がい」という概念以前に、様々な違いのある人がごく自然に、共に暮らすことができる社会そのものの体験でした。

さてもうひとつ、これは先日の出来事

をお伝えします。その日三方原スクエアに一本の電話連絡が入りました。それはスクエアが運営するグループホームに入居している利用者Hさんが通所するパンを製造販売している就労事業所Mからで、通常Hさんは公共バスを利用し自主通所しており、この日も事業所には着いたのですが、バスではなく車で送ってきてもらったとのことなのです。しかもその方は関係する施設職員ではなく一般の方であると。一体それが誰でもどのような状況なのか全く分かりませんでした。M事業所の職員さんがその方の連絡先を聞いて下さっていたので、その後私から電話を掛けさせて頂き話を伺いました。話を分かったのは次の通りです。その方はご家族が近くの総合病院へ入院されており、面会のためにいつもバス停前を通るのでHさんがこの時間決まったバスに乗っていることが分かっていました。またHさんは行き先が記載されている名札を掛けていたためM事業所へ通所していることが分かっていた。しかもその方も以前パンを購入するためにM事業所へ行ったことがあったため場所も分かっていた。そしてこの日、Hさんは定時のバスに乗ることができず困っており、Hさんからこの方へ声を掛けてきた。通所先や名前も名札で確認できたので送って行くことになった。このような状況だったようです。様々な偶然とも思えるような状況が重

なつてこの日Hさんは無事にM事業所へ着くことができたとは思いますが、何よりもこのように周りにいる方が気に掛けて下さり、困っているHさんに対して快く対応して下さったことをとても嬉しく感じつつ、上記したカナダでの体験が重なりました。

一昨年のつぶえの巻頭文で私は共生社会についての記載をしました。障がいのある人もない人もこの社会で共に生活し生きてゆくためには何が必要なのでしょう。か。それを考える時、近年の日本の「福祉」という制度や仕組みの中の表現はなかなか難しいことのような気がします。もちろん貧しかった時代の日本を経て戦争の出来事、その後の高度経済成長等の経緯もある中で決してそれは単純な問題ではないと思います。以前に比べて整えられてきている部分もあると思いますが、制度の在り方、虐待防止法、差別解消法など近年の流れを見る時、本来あるべき福祉の本質との違和感を感じます。

先日小羊学園は創立50周年を迎えました。創立者である故山浦俊治先生のことを想い返し、多くの資料を整理する作業も行いましたが、「平和運動」「弱さ」という求心力「意味論・関係論」など、その思想は制度や仕組み以前に全ての人が社会で共に生きるうえで根底となり、一番必要なことである。この機会にあらためて感じました。

オリーブの樹も 10周年を迎えました

平成18年に開所したオリーブの樹も今年で10周年を迎えました。ここに至るまでには多くの皆様のご支援と、ご協力があったから10年という節目を迎えられたと思います。ささやかではありますが、利用者のご家族の皆様をお招きして、記念パーティーを行いました。パーティー当日は、熊本震災の当日だったため、内容を縮小し、黙祷をささげてからの開宴となりました。イベントは浜北特別支援学校太鼓部の皆さんの演奏や、自衛隊OBの方のバンド演奏などを行いました。

これからもオリーブの樹らしい活動を展開して、20年30年とお祝いができるように努力していきたいと思ひます。今後ともご支援をよろしくお願い致します。



幹部人事異動の報告

2016年4月1日付けで左記の通り幹部人事の異動がありましたので、ご報告いたします。

◇稲松 義人(理事長・南工リア長)
↓ 理事長専任

◇池谷 慎人(法人本部事務局長)
↓ 中工リア長 兼 本部事務局長

◇雨宮 寛(中工リア長)
↓ 南工リア長

◇舟橋 暢(三方原スクエア支援課長)
↓ 支援次長 兼 風の丘施設長

◇福地 弘倫(三方原スクエア事務課長)
↓ 事務次長 兼 法人総務担当

創立50年 小羊の歩み①

サダコ先生に抱かれたトヨヒロさんも50歳を超えました。二人の温かな眼差しに心癒されます。



*今号から連載スタートします

小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告

4月 受付分 567,280円 (26件)
累 計 567,280円 (26件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785

口座名義 社会福祉法人小羊学園

ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785

口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337

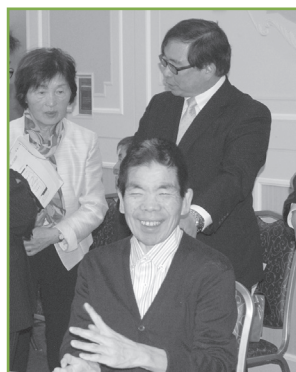
編集後記

4月30日、小羊学園創立50周年記念会が挙行された。当日は連休の中日でありながら350名の方々にお越しいただき、盛大に実施できたことを感謝申し上げます。式典を終えしばらく後に、元中日新聞記者の平崎氏からメールでメッセージをいただいた。『記者の原点が小羊学園にあり、山浦先生にあった』旨のお言葉を拝し、山浦先生のお働きの尊さと小羊学園に身を置きその理念を受け継ぐ仕事を与えられていることに感謝。これからも、小羊学園らしい社会的役割を全うしたい。当日お越し頂いた皆様、またお越し頂くことができないながらも、小羊学園のことを覚えてくださる皆様、どうぞお身体ご自愛ください。

(F)



山浦先生とご関係の深かった
教会員の皆さまもご出席



開設当初からの利用者も出席
ご家族やなつかしい旧職員と
会えて、笑顔がこぼれました



感謝の集いには多くの
お客様に出席いただきました



会場ロビーでは、
懐かしの写真を
展示しました



児童寮時代から
お付き合いの深い
保護者のみなさん

第2部 感謝の集い 於 4F 芙蓉の間

- ・ご挨拶
静岡県手をつなぐ育成会 会長 小出 隆司 様
静岡県重症心身障害児(者)を守る会 前会長 田中 一光 様
- ・乾 杯
社会福祉法人 十字の園 理事長 平井 章 様
- ・会 食
- ・スライドショー 小羊学園のあゆみ
- ・友情演奏
聖隷クリストファー中高等学校吹奏楽部様
- ・感謝の挨拶
三方原スクエア家族会 会長 田中 清司 様
- ・閉会の挨拶
つばさ静岡施設長 山倉 慎二



ビュッフェでの会食



閉会の挨拶
つばさ静岡
山倉施設長



懐かしい仲間と当時を思い起こし会話が弾みました



聖隷クリストファー中・高校の友情演奏

小羊学園創立50周年 感謝の集い

多くの皆様に支えられ50年を迎えられたことに感謝！

2016年4月30日(土) 於 ホテルクラウンパレス浜松



記念礼拝が厳かに行われた

山浦先生と遠州教会で教会生活を
ともにした小林牧師に『小羊学園の
原点』と題し、説教いただいた



法人理事長 稲松義人から
ご出席の皆様へご挨拶



県健康福祉部障害者支援局
高橋様からご祝辞いただく



感謝状の授与
浜松ロータリークラブ様



静岡県知的障害者福祉協会
八谷会長からご祝辞いただく

第1部 記念式典 於 3F 松の間

- ◆記念礼拝
司会 出水厳生 (三方原スクエア施設長)
奏 楽 鈴木昌代 (法人本部)
説 教 『小羊学園の原点』 小林 眞 牧師
岩槻教会牧師・小羊学園を支える会会長
讃美歌 『小さいひつじが』 (讃美歌21・200)
『ちいさなこ』 (讃美歌2編26)

第1部 記念式典 於 3F 松の間

- ◆感謝会
・理事長挨拶 社会福祉法人小羊学園 理事長 稲松 義人
・感謝状贈呈
社会福祉法人 十字の園 様
浜松ロータリークラブ 様
三方原スクエア家族会 様
・来賓祝辞
静岡県健康福祉部障害者支援局 局長 高橋 良武 様
静岡県知的障害者福祉協会 会長 八谷 重之 様
日本基督教団 東海教区 代理 森田恭一郎 牧師
・祝電披露